

朝、1年生の教室には6年生のお兄さん、お姉さんが待っています。

登校してきた1年生の荷物の片付けなど、朝の準備を手伝っています。

ただ、これは当番ではなく、自主的なボランティア活動。1年生の力になろうと頑張る6年生です。

1年生は、教室に張り切ってやって来ます。その一方で、環境が変わったことに不安も感じています。

涙、涙でトボトボ歩いてくる1年生もいます。そんな子に、6年生が「大丈夫」「がんばろう」って優しく声をかけます。その6年生が言っていました。「俺も1年生の時、よく泣いてたわ」って。

子ども達は本来、自分で考え伸びようとする力を持っています。いろんな経験をし、たくさんの人と関わりながら、悩み考え、判断し行動しながら自分自身をつくっていきます。

今は不安を抱えた1年生も、6年生になったときに自分を振り返って、「俺も成長したなあ。」と実感することでしょう。

自分で考え伸びようと努力することは簡単なことではないので、継続していくためには周りの応援やサポートも必要です。

私たち教職員は、学校教育目標である「自ら学び みんなで高まる 児童の育成」を目指し、困難に出会っても、子ども達が自分で、あるいはみんなで考え伸びようとする力を育ていけるよう、教育活動を行ってまいります。

保護者、地域の皆様には変わらぬご協力、ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和7年4月

廿日市市立平良小学校長 二野宮 大英